

学位論文題名

古今和歌六帖の万葉歌

学位論文内容の要旨

平安朝における万葉集享受の実態究明には勅撰集、私家集、物語等、広範囲にわたっての調査を必要とするが、わけても、古今和歌六帖は王朝文学全般に大きな影響を与えた類題歌集であり、また一方、大量の万葉歌を収載していることから、もっとも重要な調査対象である。しかるに、同書の万葉歌の検討は、膨大な作業を必要とするところもあってか、部分的な、または概説的なレベルにとどまるものが多く、本格的な業績はいまだあがっていない。また従来の研究は、六帖の成立自体について未解決の点が多々あるうえに、その底本に末流本(寛文版本)を用いることが多く、そのことのもたらすデータの混乱が実態の把握を困難にしている。

本論文は従来の研究のこのような欠点を克服し、六帖の万葉歌全体に詳細、かつ慎重な検討を加え、また万葉訓点史の該博な知識を駆使してその出自を明らかにすることに努めた。具体的には、従来の研究でも問題にされながらその具体的な様相が明らかになっていなかった万葉歌の出自に関し、複数の徴証に基き六帖の万葉歌が多く万葉集から直接に採録されたものである可能性の高いことを明らかにし、また次点期までの万葉集の古写本の訓と六帖の万葉歌のよみと、さらには作者名の異同を克明につきあわせ、六帖の万葉歌の性格を明らかにすることに努めて、従来の研究が曖昧にしていた判定の基準を明確にした。

論文の構成は以下の通りである。

- 第一章 六帖の研究史
- 第二章 六帖のテキストと万葉歌の算定
- 第三章 六帖万葉歌の万葉集からの直接採歌に関する徴証
- 第四章 古今六帖の伝承
- 第五章 作者名をめぐって

なお、資料編においては六帖の万葉歌1275首全てについて、現存する万葉集の主要古写本の訓と比較し、その異同状態を克明にしるす。

学位論文審査の要旨

主査	教授	神谷忠孝
副査	教授	河内祥輔
副査	教授	南部昇
副査	助教授	身崎壽

学位論文題名

古今和歌六帖の万葉歌

審査委員会は、本論文提出後、論文を精読し、また口述試験を実施し、その結果について審議し、適正な評価に努めた。その結果、以下に述べるような本論文の評価に鑑み、全員一致して、具廷鎬氏に課程博士（国文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達し、研究科委員会に報告した。研究科委員会はこれに基づき慎重な審議を重ね、これを承認したものである。

六帖の万葉歌、特にその伝来に関する研究は、幾多の先駆的研究に恵まれ、その後も究明が続けられてはいるが、いまだ部分的な検討にとどまり、その全貌を捉えるには至っていない。本研究はその困難な課題に挑戦した初めての試みと言える。とりわけ、万葉集古写本の訓との詳細な比較対照とそれに基づく六帖万葉歌の訓一致度による分類を行ない、グループごとにその伝来の経緯を区別して考察した点は、従来の研究が曖昧にしていた判定の基準を明確にしたもので、六帖万葉歌の出自を明らかにするための客観的な分析方法を初めて提示したものと言ってよく、個々の結論には一部疑問が残るものの、包括的な研究として今後の研究に大きく寄与するものと評価できる。とくにこうした分析の結果得られた、六帖万葉歌の合計約40%が万葉集から直接に採られた可能性が高い、との主張は古今六帖ばかりでなく平安朝に於ける万葉集の伝来、享受の実態を究明するうえで大きな手がかりを与えるものと思われる。